idea

ニュースレター「イデア」

2021. 4

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、
「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

1｜二言三言｜　産婦人科野田　野田隆弘さん(前編)
3｜団体紹介｜　清庵の里
5｜地域紹介｜　鴨地自治会（川崎）
7｜企業紹介｜　有限会社　幽玄洞観光（東山）
8｜博識杜のフクロウ博士｜　地域運営の落とし穴⑨
9｜センターの自由研究｜　仕事の流儀「葉たばこ」～後編②～

今月の表紙

複数の蕾がついた「葉タバコ」。星型でピンク色の可愛らしい花が咲きますが、実はこの花は開花前に摘み取られてしまいます。「心止め」と呼ばれるその作業は、主役である「葉」に充分な栄養を行き渡らせるために行われます。ちなみに完全契約栽培の葉タバコですが、観賞用として一般の人でも入手できる品種もあるようです(「ニコチアナ」で検索！)。

idea

発行　いちのせき市民活動センター　せんまやサテライト
〒021-0881 一関市大町4-29 なのはなプラザ4F Tel 0191-26-6400 Fax 0191-26-6415
〒029-0803 一関市千厩町千厩字町149 Tel 0191-48-3735 Fax 0191-48-3736
ホームページ:https://www/center-i.org/ メール:center-i@tempo.ocn.ne.jp

おしらせ

募集

清庵の里 会員募集中

本誌団体紹介ページでご紹介した「清庵の里」では、一緒に建部清庵の功績を後世に継承していく会員を募集しています。会員種別は企業・団体として参加する法人会員と、個人会員の2種あります。

詳しくはFacebookページ内のメッセージまたは下記からご連絡ください。

年会費:
<法人会員>　10,000円
<個人会員>　3,000円
問合:090-8256-2866(小川)
0191-23-3434
（一関商工会議所内）
Facebookページ:「清庵の里」で検索

募集

岩手県南史談会 会員募集中

岩手県南、宮城県北の地域史の調査・研究を目的とする岩手県南史談会では、現在、新規会員を募集しています。主な活動は、研究発表会や年1回の研究紀要の発行のほか、地域史の調査・研究をしています。

いつでも誰でも入会が可能で、現在は約60人の会員がいます。詳しくは下記までお問合せください。

年会費:3,000円
※会員には毎年、研究紀要が届けられます。
問合:0191-24-3741
✉bigi_ko@yahoo.co.jp
（岩手県南史談会事務局:大島）

情報

「アクティブシニアTV」制作のお知らせ

一関市シニア活動プラザでは、利用団体や2020年度主催事業などを紹介する動画「アクティブシニアTV」を制作し、ホームページや動画投稿サイトYouTubeで公開しています。今年2月に開催予定だった活動団体の交流と情報交換、成果発表の場「シニア・フェスタ2021」の中止に伴う代替企画でもあります。動画は下記QRコードからも視聴可能です。

←ホームページ
https://www.ichinosekishakyo.com/senior/
↑YouTube

問合:0191-31-8118
（一関市シニア活動プラザ）

情報

進路未決定の卒業予定者「サポステ」支援対象へ

働くことに悩みを抱えている15～49歳までの方を対象に就労支援事業を行う「いちのせき若者サポートステーション」の支援対象が変更されました。これまでは在学中の「卒業・修了年度の進路が未決定」の学生は支援対象外でしたが、令和3年1月から支援対象となり、卒業を控えているのに進路が決まらず不安を抱える学生などの想いに相談員が寄り添えるようになりました。詳しくは下記までお問合せください。

対象追加:卒業・修了年度の「進路が未決定の卒業予定者」
問合:0191-48-4467
（いちのせき若者サポートステーション）

情報

本場韓国料理の総菜注文・販売開始

本場韓国料理のカフェ開業を目指す花泉町の女性たちが、自宅の一部を改装し、「そうざい製造業」の許認可を取得しました。4月1日より、韓国風海苔巻き「キンパ」を販売開始します。仕出しの注文にも下記営業日で対応可能です。前日17時までにご予約ください。その他、営業日以外の注文・数量・配達地域などは下記までお気軽にご相談ください。

販売先:道の駅厳美渓、新鮮館おおまち
※毎週月・火曜日のみ
価格:1パック500円(税込540円)
営業日:土・日・月・火曜日
問合:一関市花泉町油島字鴻ノ巣87
080-1655-8923(鈴木)

情報

「地域協働体」の情報発信状況について

当市内における地域協働体では、それぞれが工夫をこらした情報発信を行っています。このたび、いちのせき市民活動センターのホームページ内に、各協働体のインターネットを活用した情報発信の状況を一覧化したページを増設しました。下記QRコードを読み込むか、下記URLからアクセスし、ご活用ください。

HP:https://www.center-i.org/
トップページより「地域協働体リンク」をクリック
問合:0191-26-6400
（いちのせき市民活動センター）

まちの写真展

スタッフがまちの１コマを切り取ります。

作品名「無事カエル」

藤沢・第12区自治会（黄海）の花壇に佇むお地蔵様。屋根にはカエルと「無事」という文字、お腹には「安全地蔵」と刻まれています。自治会でも設置の経緯が定かではなく、地域の方が野焼きで作ったのではないかと推測。道行く人々の安全をお祈りしています。

旧町村別の人口動態等を共有します。

2021年**3月1日**付
(2021年２月28日現在
住民基本台帳より)
※外国人登録者含む

一関市全体

		前月比
人口	113217	-176
世帯数	46266	+2
出生数	27	-14

	人口	前月比	世帯数	前月比
一関	55729	-59	24302	+8
花泉	12538	-39	4714	-4
川崎	3457	-5	1292	0
千厩	10356	-22	4108	+1
大東	12666	-19	4958	-2
東山	6287	-12	2305	-4
室根	4659	-19	1780	+3
藤沢	7525	-1	2807	0

二言三言

153／113,217

野田隆弘

弘前大学医学部を卒業し、産婦人科医としての経験を積みながら、平成16年には東北大学にて博士号取得。東北大学病院のほか、宮城県のスズキ記念病院、仙台ARTクリニックなど、生殖医療専門病院での経験も豊富。平成30年、本格的にUターンし、産婦人科野田での治療一本に（以前から週に１～２回の出張診療を行っていた）。昭和43年一関市生まれ。

第82回　産婦人科野田　医師(医学博士)　野田隆弘さん　×　いちのせき市民活動センター　センター長　小野寺浩樹

「不妊治療」の「選択肢」を広げて
～正しい理解とサポート環境の構築～　【前編】

晩婚化とともに「晩産化」も進む現代。厚生労働省のデータによると、昭和50年の第1子平均出産年齢は25・7歳でしたが、平成28年には30・7歳。また、出生数は減少を続けているのに対し、45～49歳の出産数は増加しており、令和元年で見ると、昭和60年の6・5倍にも及んでいます。そんな晩産化時代の鍵とも言える「不妊治療」について、私たちはどれほどの「理解」を持ち合わせているでしょうか。

小野寺　少子化の中で、子どもを産まないのではなく、子どもができずに悩んでいる人も多いと聞きます。実際、不妊治療で通院される人はどれくらいいますか？

野田　体感として患者さんの2～3割が不妊治療の患者さんですね。月に2～3回通院する人もいれば、3か月や半年に1回の人もいるので、一概には言えませんが。

小野寺　通院の頻度にそれだけの差があるのはなぜですか？

野田　基本的な情報を提供して、半年や1年間は自然に頑張るという患者さんもいれば、超音波検査などによるタイミング法や、人工授精[※1]などの場合は月に1～3回になったり、それぞれの事情に合わせて計画します。

小野寺　治療を始める年代やきっかけにはどういう傾向があるでしょうか？

野田　多いのは30歳の方ですね。30歳、35歳、40歳と、節目のようなタイミングでしょうか。20代のご夫婦に多いのは、1年間自然妊娠を目指した結果、妊娠に至らず、原因を知るために来院するというケースです。

小野寺　確かに今は、女性もある程度仕事のキャリアを積むとなると、子どもを産みたいと思うのが37～38歳くらいになってしまうようですね。

野田　子どもをつくることに対しての考え方が今と昔とでは全く違います。かつては自分のイエ・家系が大事で、家系の発展のために子どもを持ちましたが、戦時中になると、国を強くするために出産が奨励されました。

小野寺　「産めよ殖やせよ」政策ですね（苦笑）。

野田　そう。そして近年の日本政府はGDPをあげるためにと言っていますよね。でも、個人の立場とすれば、GDPなんて意識しているわけではなく、自分たちのためであり、「自分の人生を前に進めるため」に妊娠を望んでいます。ようやく「自分たちの人生・幸せのために子どもを持つ」ということが大きな声で言える時代になったんだとも言えます。

小野寺　確かに、時代によって妊娠・出産に対しての価値観が違うので、地域の中で話をする時に、今の先輩世代とは話が合わない部分があります。

野田　実は「不妊治療」の考え方も変化が生じてきていて。最近は「不妊治療＝体外受精」と言っても過言ではないくらい、体外受精がメインになってきてしまっています。不妊治療に関する学会に出席しても、体外受精をしている開業医が急増している実感があります。国としても不妊治療の保険適用を……と言うのは、実際のところ体外受精を指しているんです。

小野寺　体外受精がメインになってきている背景は何なんでしょうか？

野田　受精する確率や1回あたりの効率が高いことですかね。ただ、体外受精というのは、本来は受精卵が子宮に移動することができない卵管閉塞[※2]の患者さんのための治療法です。それが、最近は卵管閉塞以外の人でも、妊娠の確立が高いために、体外受精を行う人が増えている現状です。

小野寺　不妊治療という言葉は一般的になってきていますが、具体的な理解はないのが正直なところです。実際、不妊症を「治す」という治療方法があるんですか？

野田　不妊治療で来院される患者さんの大多数が「自分には治療しなければいけない要因があって、治療したら妊娠できる」というストーリーを抱いて来ますが、実際にはその図式に当てはまる人はごくわずかです。ほとんどの人が、全く原因はないが妊娠しない、もしくは妊娠率はゼロではないけど、少し確率が低いというケースですね。

小野寺　それは意外です。治療が必要なケースというのは？

野田　メジャーな要因は大きく3つあって、無排卵症[※3]、卵管閉塞、高度乏精子症[※4]です。この3つの場合、治療しなければ絶対に妊娠できませんが、逆に治療すれば妊娠できます。治療法としては薬や手術、先ほど言った体外受精などがあります。

小野寺　確実に治療が必要な症状が少ないとなると、それ以外の人はどのような診察を？

野田　一般不妊治療として、基礎体温や超音波検査などで排卵日や排卵周期を明らかにしたり、人工授精などがあり、それはそれで脈々と学問の流れがあるわけです。僕としては、こうしたクラシカルな不妊治療に力を入れているという立場です。基礎体温をしっかり見て、タイミングを合わせてあげたり、要は妊娠に至るまで気持ちが折れずにやっていけるように、本人たちの努力をサポートするという部分です。

小野寺　「不妊治療」という言葉から、「悪い所を治して妊娠する」というイメージを抱きがちですが、実際には「妊娠できるようにサポートする」という方が近いんですね。

野田　世の中では「不妊治療＝悪い所を治して妊娠」と思われていますが、実際に行われているのは「体外受精をして早く妊娠できるようにする」という構図です。確かに体外受精だと、どうしても体外受精が必要な人も、そうではない人も、ある程度の年齢までは半分強の人が妊娠する……。ただし、体外受精は地理的にも経済的にも負担が大きい[※5]んです。お金も時間もあって、体外受精をする環境にある人はごく一部です。

　野球に例えると、メジャーリーガーを使ってホームランを狙うのか、打率低い人たちが頑張って毎回バントとかででも塁に出ようとするのか、という違いです。どちらにしても良い成績は出せるんだから、どちらを選択しても良いように、どちらでも選択できるような状態を作ってあげたいので、クラシカルな治療に力を入れながらも、体外受精を行う病院との連携もしています。

【次号へ続く】

医療法人平成会　産婦人科野田
電話　0191-23-0608
※定休日　火・木曜日

※1　排卵日に合わせて、洗浄・濃縮した運動精子を直接子宮内に入れる方法　／　※2　子宮の左右にある卵巣と子宮をつなぐ「卵管」が閉塞している状態
※3　様々な要因により排卵が起こらない状態(月経不順含む)　／　※4　精子の数が一般的な数値よりも少ない状態(1ccあたり500万以下)
※5　体外受精を行う病院は、県内では盛岡のみのため、仙台の病院に通う人も。１年間にかかる費用は100万円程になるケースも(卵子の採取数や、凍結の有無、受精方法等によって異なる)。

過去から現在、そして未来へ伝える

清庵の里

清庵の里
平成30年７月に発足し、法人会員28企業・団体、個人会員60名が所属（令和３年１月時点）。建部清庵（たけべせいあん）の偉業を顕彰しながら山野草などを使った地域経済の発展に資することを目的に活動中。

〒021-0867　一関市駅前１番地（一関商工会議所内）
TEL：0191-23-3434／090-8256-2866（小川）

写真：オリジナルカードゲーム『四木一草』を体験する子どもたち

偉人が残した功績を顕彰し、学ぶ

「一関に過ぎたるものは二つあり、時の太鼓と建部清庵」と謳われる建部清庵は、一関藩の藩医で、一関藩外からも尊敬されるほどの医術の持ち主でした。清庵は医者としても優れているだけではなく、救荒書『民間備荒録』[※1]と『備荒草木図』[※2]を著し、度々繰り返される凶作への備えと、飢饉の際に起きる様々な問題への対処法をまとめたほか、飢饉に備えた「四木一草」[※3]の栽培を奨励するなど、多くの民を救います。

当市が誇る先人建部清庵が推奨した「薬食同源」[※4]の考え方や知恵を学び、薬草や自然の植物を資源として捉え、その活用方法を次世代に伝えることで建部清庵を顕彰しようと活動しているのが「清庵の里」です。

※1　宝暦5年（1755）に書き上げた飢饉対策を説いた救荒書（上下二巻）。野草を食べて食中毒になり、命を縮める人が多かったため、85種の植物の性質、味と毒の有無、調理法、解毒法、医学的効用等が記された。明和8年（1771）に江戸の版元から出版され、全国に広まった。

※2　104種類の植物の詳細な図と、それを食べる際の調理法や注意点が記されており、文字の読めない民も正しい知識を得ることができた。これにより飢饉の際に毒草を食して命を落とす人が激減した。

※3　八代将軍徳川吉宗が享保の改革の際に栽培を奨励した四木三草に倣い、建部清庵が飢饉に備えて栽培するように勧めた4種の木（柿・栗・桑・棗）と1種の草（菜花）のこと。これらは、一関で良好に生育し、平常時は換金作物として、稲作だけに頼り不安定であった農民の収入を助け、延いては藩の財政を安定化し、飢饉時には食糧とすることもできる有用な植物。

※4　病気を治癒する「薬」も日常「食」も、ともに生命を養い、健康に保つためには欠かせないもので源は同じという意味。似たような意味で「医食同源」というのもあり、清庵の里ではどちらも併用している。

小さな輪から大きな輪へ

同会の前身となる活動は、顧問の佐藤紘子さんを中心に、平成３年頃から始まりました。

元々、植物が好きだったという佐藤さんは、建部清庵の教えにより飢饉から人々を救った「山野草」に興味を持ち、複数の知人と野草の効能などについて勉強し始めます。そのうちに少しずつ仲間の輪が広がっていき、平成18年頃「建部清庵に学ぶ会」を発足させます。

数年の活動の後、会の目指すものや組織体制などを改めて整理するため、一度解散し、平成27年４月に「建部清庵文化顕彰会」を発足。会長の小田嶋次勝さんは、「『一関に過ぎたるものは（後略）』と謳われながら、市民でも清庵先生の名前すら知らない人は多く、その功績を顕彰するといった活動などが十分とは言えない状態だった。飽食の時代だからこそ、清庵先生が著した山野草のもつ力を、薬食同源や山野草ビジネスなどに活用し、健康的で安全な食生活につなげていきたいという思いだった」と発足の背景を語ります。

平成30年７月には、地産食材のブランド化を目指した活動を行っていた「清庵の里機能性食品創生協議会」[※5]と組織を合併。互いに協力して建部清庵の功績を後世に継承していくべく、現在の「清庵の里」が誕生しました。

同会は部会制をとっており、顕彰活動を目的とする顕彰部会、食品開発を目的とする需要把握・販売部会、生産・加工部会、試験研究・分析部会の４部会で構成されています。

佐藤さんは、「最初は野草が好きで始めた集まりがこんなにも大きく成長したことには驚いた。清庵先生の功績を伝承していき、今後は山野草ビジネスをもっと拡充させて、フレンチなどもできたら嬉しい」と今後の抱負を語ります。

※5　平成28年4月に発足。その前身は「機能性食品研究会」で、平成18年頃から活動。

今だからこそ歩みは止めず

同会では野草をもっと身近に感じてもらおうと、「清庵Ｃａｆｅ料理教室」や四季折々の食べられる山野草を詰めた「清庵弁当」の販売、子どもがカードゲームをしながら楽しく「四木一草」を学ぶ「リスクコンベンション」カード（3頁上部写真参照）」の制作など、様々な方法で市内外の人たちへ建部清庵の功績を伝えてきました。

小田嶋さんと佐藤さんは、「建部清庵という偉人を通じて、子どもや若者が郷土に愛着と誇りを持ってもらうきっかけになればと思う。また、山野草に親しむことにより自然を大切にする心を育んでもらいたい。山野草は一関の貴重な資源。それをブランド化し、一関を元気にしていきたい」と笑顔で語ります。

飽食の時代の今、とりわけ日本では飢饉は過去の話と捉えられがちですが、新型コロナウイルス感染症のような新興感染症や自然災害に対しての備えとしても、先人の残した知恵を学ぶ機会は今なのかもしれません。

Q.「建部清庵」とはどんな存在？

会長

A. 心のオアシス

おだしま　つぎかつ
小田嶋次勝さん
公益財団法人岩手県南技術研究センターの工学博士を務める小田嶋さんは、平成18年頃から佐藤さんと一緒に活動しています。

顧問

A. 一関の恩人

さとう　こうこ
佐藤紘子さん
世嬢の一酒造（株）へ嫁いできた佐藤さんは、建部清庵の偉業に心を打たれ、多くの人たちに「つみ草料理」を伝えてきました。

gallery - Photo

イベントでPR
一関市内で行われるイベントに参加し、団体のＰＲをしています。写真は「いちのせき市民フェスタ20」での一コマ。

磐井川河川の一画で
令和2年10月、磐井河川緑地に四木一草の一つ菜の花の播種会を開催。開花後の種を採取し、菜種油に変身させる予定です。

食べられる野草を学ぶ
「清庵Ｃａｆｅ料理教室」には子どもも参加。この日は、桑の葉を使った「桑ベーゼパスタ」作りに挑戦しました。

清庵の里ロゴマーク
建部清庵の功績を後世に残していくという覚悟の意味で作成したロゴマークには四木一草がデザインされています。

新旧住民が混在する自治会運営に悩みながらも

鴨地自治会

国道284号線沿いに位置し、自治会内には川崎運動広場、道の駅かわさき、川崎町の名物「金時まんじゅう」を販売する湖月堂などがある。98世帯280人ほどが暮らし、総務部、体育部、環境部、文化部、女性部の５つの部会で組織されている。

左の写真：世代間交流事業「スポーツ吹矢大会」（平成31年）

川崎 鴨地自治会（通称：鴨地会）

川崎地域では最多の人口を抱えて

国道284号線薄衣バイパスの開通や、平成15年の「道の駅かわさき」開業などで、交通拠点となった川崎町ですが、同バイパス周辺は水害が多発する湿地帯だったため、同エリア（千厩川支流沿い）に位置する鴨地自治会の住民も、その多くは山間部の高台に居住していたのだとか。

それが、平成11年度から行われた北上川（砂鉄川）の治水対策事業によって水害が減少し、バイパス開通で利便性が高まると、自治会内には市営住宅や新興住宅が建ち、多くの人が移住。現在では川崎町内で一番多い人口・世帯数を抱える自治会となりました。

そんな同自治会について自治会長（取材当時）の千葉直志さんは、「堤防ができてからは空き家があってもすぐ埋まるような状態。空き家が荒らされないという面では安心だが、新しく移り住んできた人の中でも特に若い人の自治会行事への参加は少ない。まだ自治会に溶け込めていないこともあるが、それ以前に生活や働き方も今と昔では全く違うことも原因にはある」と悩みを話します。

少しでも新旧住民の交流の機会をつくろうと、同自治会では、新しく転入してきた人を総会に招待し、その場で紹介するという取り組みを行っていますが、本人が参加するケースは少ないとのこと。

新住民との関わり方を模索しながらも、長年続けている事業も多い同自治会の活動についてお話を伺いました。

長年の取り組みから生まれる「笑顔の輪」

長年取り組み続けている事業の１つ目は、女性部による子どもたちの見守り事業です。川崎小学校の新入学児童へ、手作りの交通安全お守り「愛の鈴」を42年間も贈り続けています。

「愛の鈴」は、旧川崎村が特産化を目指していたイチゴがモチーフ。赤い毛糸で編んだ果実の中に、川崎町薄衣の浪分神社で祈祷された交通安全のお札を入れ、フェルトのヘタと鈴を付けて仕上げます。

実際のイチゴに近い大きさで作られたこのお守りは、まるで本物のイチゴを出荷するかのようにキレイに箱詰めされた状態で届けることがこだわり。女性ならではの心遣いと工夫たっぷりのお守りは、自治会内外の子どもたちの交通安全を願い続けます。

文化部が主となって開催する「盆踊り大会」も70年以上続く同自治会自慢の行事で、千葉さんは「他の地域とは熱量が違う」と誇らしげに話します。

その名の通り、「盆踊り」を参加者で楽しみますが、約３日前から盆踊りの練習のために集まるなど、当日以外の交流の機会にもなっています。

会場となるのは、自治会内にある特別養護老人ホームの敷地。そのため、住民だけではなく、入所者や職員、お盆に帰省する人など、多くの人が一緒になって楽しみます。

焼き鳥などの屋台が出店していた時期もありましたが、参加者の減少と運営の厳しさから、現在は参加者全員に賞品が当たる抽選会に力を注いでいるのだとか。「抽選会の賞品は日用品なので、もらって損をすることはない」と笑顔を見せる千葉さんは、「盆踊り大会は、自治会費だけでは賄いきれず、参加者からのお祝い金でカバーしているところもある。長年続けているからこそ絶やしてはいけないし、それを住民も分かってくれているからこそ、ここまで続けてこれた」と続けます。

新住民の参加は少ない現状ですが、今後は参加率を上げる工夫を考えながら、「笑顔の輪」を広げていきます。

一人に負担を集中させないためのルール

大多数の自治会が区長と自治会長を兼任する川崎地域。長い期間自治会長を務めていると一人の負担が多くなるほか、自治会内の事業もマンネリ化してしまうということから、同自治会では自治会長は２期で交代するよう心掛けており、副会長が自治会長に上がるという流れも作っています。

そのため、副会長にはある程度目星をつけていた人を配置し、自治会長の仕事を近くで見ながら、次期自治会長の育成期間として捉えています。

令和３年２月に行われた臨時総会では、自治会長を２期務めた千葉さんから、副会長で納税組合長を兼任していた菅原正志さんに自治会長のバトンが渡されることが決定。

長年続けてきた事業も大切にしながら、新旧住民の交流や関わり方の模索により力を入れることで、住み良い地域を目指していきます。

Q.集落の自慢は何ですか？

自治会長（取材時）

ちば　なおし
千葉直志さん

若い頃から自治会活動に参加し、自治会長を２期４年務める。今後は、自治会のバックアップに回っていくとのこと。

A. 和と結束

副会長（取材時）

すがわら　まさし
菅原正志さん

令和３年度からの自治会長に選出された菅原さんは、令和２年度まで川崎市民センター長を長年務めてきた頼れる存在です。

A. 笑顔で元気な鴨地会

gallery - Photo

コロナ禍の臨時総会

例年は自治会員も参加しますが、感染対策のため、三役、各部の代表、班長のみで開催しました（令和３年２月14日）。

42年間贈り続けて

長い取り組みが評され、2019年度市民憲章で表彰されました。鈴の音は子どもたちが元気に歩いている合図です。

井戸端会議スポット

花壇の横に設置したイスとテーブルは自治会で手作りしたもの。住民の憩いの場として利用されています。

住民みんなで環境整備

環境部が主となって行う春と秋の草刈りには、多くの住民が参加し、自治会内を通る新旧国道284号線をキレイにします。

今月のテーマ

地域運営の落とし穴⑨

博識杜のフクロウ博士

第25話

地域づくりに「オンライン」はマッチするか？

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために**「新しい生活様式」**が提案され、早一年が経過しようとしています。国内でもワクチン接種が始まったものの、ウイルスが消滅するわけではないので、依然、「withコロナ」時代は継続となります。

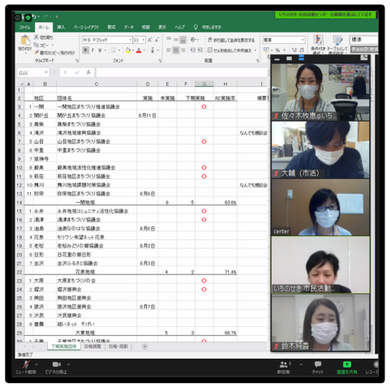
さて、「新しい生活様式」の実践の中では**「働き方の新しいスタイル」**も推奨され、社会は著しく変化しました。2020年５月に厚生労働省が提示した「『新しい生活様式』の実践例」の中で、「働き方の新しいスタイル」は以下のように提案されています。

働き方の新しいスタイル（厚生労働省）

- **■テレワークやローテーション勤務**
- **■オフィスはひろびろと**
- **■対面での打合せは換気とマスク**
- **■時差出勤でゆったりと**
- **■会議はオンライン**

ここ最近で身近な言葉となった**「テレワーク」**[※1]や**「オンライン会議」**[※2]は、コロナ禍以前から存在してはいたものの、コロナ禍によって普及が加速したことは間違いありません。当センターも、オンライン会議など無縁の状態でしたが、コロナ禍で必要にかられ、導入しました。

そんな「オンライン会議」ですが、**自治会などの地域コミュニティや地域づくりの場面でもマッチするか**考えてみます。



▲当センターの月例スタッフ会議（一関-千厩）を「ZOOM」というサービスを活用してオンラインで行った時の様子

仕事の場においてのオンライン会議は、職場内にインターネット環境が整ってさえいれば、必要に応じて機材を揃えるだけで導入は容易ですが、**地域の会議・会合での導入となると、環境整備のハードルが高い**のが現状。 各家庭におけるインターネット環境の整備が進んできていることは確かなのですが、全世帯完備とはいかず、さらにインターネットユーザーすべてがZOOM[※3]やSkype等のオンライン会議ツールを使えるか（機材・機種の問題、知識・理解力の問題）というとそうでもありません。

自治会館など集落の拠点に目を移せば、**‘集会’機能がメイン**で建てられているため、インターネット環境が整備されておらず、オンライン会議には不向きな状況。自治会長さんに会うたびに聞いてみているのですが、オンライン会議を導入している地域は見つかりませんでした（令和３年３月現在）。しかし、みなさんが口々に言うのは、**「我々の年代では、オンライン会議は無理だが、若い人たちなら必要なのではないか」**ということ。次世代を考えたら、オンライン会議は日常的なものになっているのかもしれませんが、今は難しいでしょう。

例えば、行政などが「行政区長会議をオンラインで行います」という流れを作ると、地域におけるオンライン会議の普及速度は早まるかもしれませんが、任期で人が入れ替わるため、個人宅の環境整備にまで行政が着手するかと言えばできません。とすると、自治会館など、集落の拠点施設への環境整備は考えられますが、自治会館は行政施設ではないため、インフラ工事はやはり難しく……。便利なツールではあるものの、**地域コミュニティのように不特定多数の人たちが入れ替わりで関わる場面におけるオンライン会議の導入は、簡単なようで難しい**のでしょう。

ただし、**地域における「ICT」[※4]の導入なども施策として考えられている**ため、**自治会館などへのインターネット環境の普及は近い**と思われます。

最後に、**自治会内や消防団で「LINEグループ」[※5]を作って、情報の共有を始めている**という話も耳にしています。ZOOM等を活用したオンライン会議までハードルをあげなくても（オンライン会議をやろうとすると逆に人が離れてしまう落とし穴にはまりそうですので）、今や身近なコミュニケーションツールとして定着した**「LINE」の活用が、地域コミュニティにおけるオンライン化の適当なレベル**なのかもしれません。

※１　情報通信技術を活用し、時間や場所の制約を受けずに、柔軟に働く勤労形態の一種
※２　Web会議やテレビ会議など、モニターやカメラ、マイクを使って遠隔地の人と画面越しに会議や打ち合わせができる仕組みの総称
※３　ZOOM、Skypeともに世界中で使用されているオンラインコミュニケーションツールの一種で、ビデオ通話が可能
※４　「Information and Communication Technology（情報通信技術）」の略で、通信技術を活用したコミュニケーション、通信技術を利用した産業やサービスなどの総称
※５　スマートフォンやパソコン等で使用可能な無料のコミュニケーションツール「LINE」の機能の１つで、３人以上のユーザーが共通のトークルームで継続的に会話をすることができる。

企業紹介

東山　有限会社　幽玄洞観光

３億5000万年前の地層を持つ鍾乳洞「幽玄洞」は、全長500mの洞内に鍾乳石や石柱、つらら石、地底湖など自然の造形美に溢れ、側面にはウミユリや三葉虫など、当時の生物の化石が多数露出しています。特にウミユリの「がく」が岩盤上では日本で初めて完全形に近い形で発見されたことから、幽玄洞は学術的にも脚光を浴び、「自然洞窟博物館」というキャッチフレーズが付けられました。幽玄洞の魅力だけならず、スタッフが収集した地域情報（ローカルネタ）を、週１～２回程度、自社のホームページで発信することにも注力しています。

３億5000万年前の洞窟景観を次の世代にも

洞穴に夢をかけた有志が神秘の世界を発掘

石灰岩質の山に囲まれ、古くから石灰の町として知られる東山町には、多くの洞穴があります。その一つにロマンをかけたのが、有限会社幽玄洞観光の初代代表取締役社長・渡辺和男さんです。

昭和55年、洞穴の土地を所有する安養寺で、洞内の様子を耳にした和男さん。町内の有志2名とともに、旧東山町に観光地化を目指した共同開発の話を持ち掛けるも「規模が小さいため不適当」という調査結果により、協力を得ることに失敗。諦めきれなかった3人は起業し、独自で洞穴の開発工事[※1]に着手します。

人間一人がやっと入れるほどの洞穴にポンプで水を注入し、内部の泥を取り除く作業を根気よく続けていくと、なんと、奥行き１３０m、高さ２mを超す美しい鍾乳洞が出現！

昭和56年３月、「この世のものとは思えない幽玄な世界」であることから「幽玄洞」と名付け、見事に観光名所化させたのです。

和男さんの息子であり、現代表（5代目）の渡辺和敏さんは「開発は先が全く見えず、家族会議の中で私たちは猛反対でした。でも父は『商売の博打はしろ』という人だったので……」と、当初は反対の立場だったことを明かしつつ、「ここは洞窟としては非常に小さい規模ですが、岩盤上でほぼ完全形で発見されたウミユリの『がく』の化石は日本で唯一。オンリーワンの場所です」と誇らしげに語ります。

※１　昭和55年の第1次開発工事では内部清掃作業や洞内調査。昭和56年に古生代生物・ウミユリの「がく」の化石発見。昭和57年、第2次開発工事で支洞を開口。平成5年の第3次開発工事では現在の入り口を掘り当てることに成功。

見て触れて学ぶ場を郷土の誇りの一つに

東山町内には高等学校がないため、地元の中学生は地域外の高等学校等に進学せざるを得ません。「いつまでも故郷を忘れないで」「地元の景観に誇りをもって」という思いから、卒業記念として、約25年前から地元の中学３年生を幽玄洞に招待しています。

「今年はコロナ禍の密を避けるため、一斉招待ではなく、入洞券の寄贈という形にしました。これをきっかけに、改めて地元の貴重な時の流れを洞内で感じ、そして誇りに感じてもらえればと思います」と語る和敏さんも、一度地元を離れ、経験を重ねてUターンしてきた一人。「希望溢れる次世代のために、この洞窟の景観を残し続けたい」と続けます。

現在、地域情報の発信にも力を入れている同社。「洞窟には四季がなく、年中同じ風景です。そこでスタッフが地域をめぐり、花々や虫、川、紅葉や雪景色等の四季が伝わる情報のほか、地元の食堂情報や学校の行事、地域活動など、本当に身近な話題を様々提供しています。将来的には地域の情報を持ち込んでもらえるような『ホッとな場』になればいいなと模索中です」と、地域に根差した観光地として、幽玄でありながらも身近な空間を提供し続けます。

1　洞内の見どころ「豊乳浄土」。洞内の気温は年中一定。夏は涼しく、冬は外よりも温かい。
2　洞窟に隣接する「幽玄洞展示館」。
3　５代目代表取締役社長・渡辺和敏さん。もともとは、同町内和光堂（文具書店）の代表。一社）一関観光協会東山の会長も担っています。

DATA
〒029-0302
一関市東山町長坂字東本町154-1
TEL＆FAX　0191-47-3303
HP　http://yuugendo.sakura.ne.jp

地域の‘気になること’をセンタースタッフが独自に調査！

ミッション54

仕事の流儀「葉たばこ」～後編②～

かつては盛んだったはずが、今となっては希少になりつつある「お仕事」やその技術等を調査する「仕事の流儀」シリーズ。県全体で見ると最盛期の３割程度にまで従事者が減ってしまった**「葉たばこ農家」**。煙草の善悪とは関係なく、一つの「産業文化」の記録として「葉たばこ」に関するあれこれをご紹介！**前編（2020年７月号）では当地域における葉たばこの歴史**をご紹介しましたが、**先月号・今月号では葉たばこ農家さんの１年**をご紹介しています。　※記載内容はあくまでもセンター独自調査の結果です。

前号までのあらすじ

昭和40年には６千６百戸を超す葉たばこ農家がいたものの、現在ではわずか**69戸**しか残っていない当地域（岩手県全体で見ると約88０戸で、戸数では全国最多）。

農家戸数の減少とともに、組合も広域にせざるを得ず、現在当地域には**２組合**のみ。このうち、大東町の葉たばこ農家14戸で組織する「野田葉タバコ生産組合」及び菅原五三男さんに密着し、葉たばこ栽培の現場を見学（時に体験）！

前号では組合員が協力して行う種まきから、各農家に配布された苗をポットへ移植する作業までをご紹介しました。

野田葉タバコ生産組合の作業スケジュール

おおよその時期	主な作業内容	作業単位
３月２０日頃	種まき	組合
４月１０日頃	苗配布	
～４月中旬	移植（花植作業）	各農家
４月下旬	土壌づくり	
５月初旬	定植	
６月２０日頃	心止め＆収穫①	
７月上旬	収穫②	
７月下旬～８月上旬	収穫③	
～１１月	乾燥作業	
１１月中旬	圧縮梱包	
１２月中旬	出荷（回収）	

＼ 特にも密着させていただいた農家さん ／

菅原五三男さん
昭和28年大東町興田生まれ。海員高等学校卒業後は貨物船の船乗りとなりますが、26歳で結婚し、大原に婿に入ったことで専業農家へ。

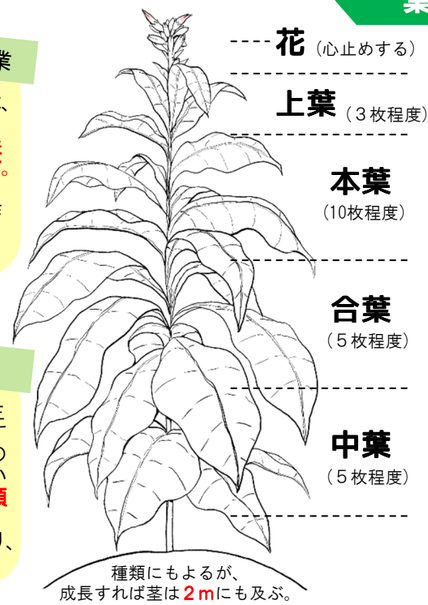
葉たばこ栽培　豆知識

「心止め」作業

あくまでも葉が主役の葉たばこは、葉に充分な栄養を行き渡らせるため、**花は咲くと同時に切り落とす。**この作業は**「心止め」**と呼ばれ、葉の収穫作業と同時進行で行われる。
※満開になる前に見つけると切り取られる。

病害虫被害

生産地に適した（強い）種類が生産される葉たばこですが、それでも病害虫の被害が発生。特に多いのが**害虫**や、**天候不順**による被害。
葉が赤くなってしまったり、虫喰い状態になってしまったり……。



葉たばこの葉は、**大きいもので長さ約70cm、幅が約30cm**もの大きさになります。

１本の茎に20枚～25枚の葉がつきますが、**茎につく位置によって大きく４つ（左図参照）に分けられます**（５～６つに分けられた時代も）。これは、上の方の葉（上葉や本葉の上位）には**ニコチン**が多く含まれるなど、**位置によって成分含有量が異なる**ためで、時代によって需要（≒買取値）が変遷しているのだとか。

乾燥させた**葉は、４つの着位毎に出荷**され、**リーフグレーダー（鑑定員）が格付け。**１kgあたり**1,800円～2,000円程**で売買されます。

※ちなみに2020年の菅原家では、**10ａあたり175kg**と例年より少ない収量でした。

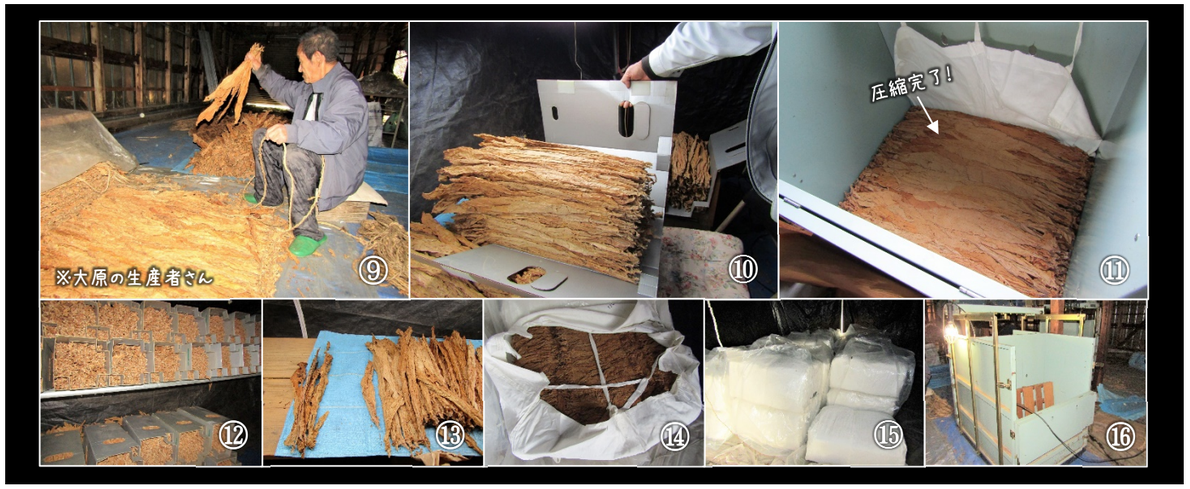
密着！＼先月号からのつづき／葉たばこ栽培 ～定植▶出荷～

種まきから約１か月後の５月初旬、苗箱からポットに移植し、ハウスで成長させていた苗を畑へ定植（右写真）。菅原さん宅では夫婦で息を合わせ、**約２日かけて１万100本もの苗を定植**します（**10ａにつき2,525本の契約栽培**）。

定植から約１か月半後、葉たばこは約１ｍの高さに成長！いよいよ収穫が始まります。手作業で**１枚１枚茎から葉を切り取っていきます。下の葉から収穫していく**ので、しゃがんでの作業が続きます……（写真①）。収穫した葉はすぐに**「縄挟み（通称）」**と呼ばれる作業へ（写真②）。菅原家では奥さまが収穫し、収穫した葉の運搬と縄挟み作業を五三男さんが担当します。

「縄挟み」では、**縄を交差させ、その間に葉の茎を１本ずつ挟み込みます**（写真④）。近年はこの作業も機械化されていたり、乾燥させる環境に応じて、やり方は異なるのだとか。ちなみに、葉に含まれるアブラにより、作業をしている手はあっという間に黒く、ベトベトに（当センター密着スタッフ談）！

「縄挟み」が終了した葉は順次**乾燥**に回します。時期にもよりますが、ハウス内（写真⑤）のほか、夏場は外で自然乾燥させることも（写真③）。約１か月後には茶色くシワシワした状態に（写真⑥）、２か月経過するとさらに乾燥が進み、ガサガサとした状態になります（写真⑧）。ちなみにこの乾燥作業も、機械管理できる乾燥施設が普及（写真⑦）。**室温35℃、湿度75%～85%で管理**します。



乾燥が済むと**「葉抜き（縄外し）」**作業。１枚１枚手作業で縄から外す生産者さんもいれば（写真⑨）、機械化している生産者さんも（写真⑯）。外した葉は、**選別**（写真⑬）と**「葉拭き（カビ取り）」**を行い、次は**通称「底なしボックス」と呼ばれる専用の箱へ**（写真⑩）。この箱の中でさらに水分を抜き、カビの発生を抑制します。**葉たばこの味と香りを決める重要な工程がこの乾燥作業（熟成期間）**なのだとか（写真⑫）。

11月中旬、**水分がしっかり抜けた葉は、圧縮梱包機へ**（写真⑪）。この機械は圧縮と同時に梱包が可能（写真⑭）。梱包が完了した葉たばこ（写真⑮）は、12月中旬に**ＪＴの専用トラックで回収**、青森・秋田・岩手の葉たばこが集まる「盛岡ＪＴリーフセンター」へと運ばれ、**リーフグレーダー（鑑定員）が格付け**。生産者の役目は終了です。

機械化も進む葉たばこ栽培ですが、それでも同組合の３分の２の農家さんでは後継者がいないのだとか……。地域の「産業文化」として、これまでに培われてきた技術と経験は後世にも伝えていきたいものです。